

大胡城跡(前橋市)

築城者: 大胡氏

築城年: 天文年間(1532年~55年)

現地の説明板にあった大胡城跡のイラスト(一部加筆)



大胡城の最後の城主であった徳川家康の家臣である牧野氏の時代の凡そ縄張図



※ 大胡城は南北に郭を並べた直線連郭式の城郭で、牧野氏の時代の登城口(大手)は南郭前にあったという/大胡氏の当初の居館は大胡城の西に所在する養林寺を中心として構えられていたらしい/大胡氏は源氏の家人として源頼朝の挙兵にも参戦し、その後も御家人として活躍したようだ/群馬県指定史跡となっている

東側を流れる荒砥川越しに見た大胡城跡/右前方が本丸のエリア/その背後と左前方は二の丸のエリア/手前の住宅地となっているエリアは根古屋地区



そこで、左手に三の丸・南郭方向を見たところ



同じく、右手を見たところ/左前方は北郭/その右手が大胡神社が鎮座する近戸郭

 [video](#)



群馬県指定史跡

おお ご じょう あと
大胡城跡

THE RUINS OF OGO CASTLE

所在地 前橋市河原浜町660-1
指定年月日 昭和42年2月24日

城郭は、南北に走る丘陵上にある平山城で、本丸を中心に二の丸を団部的に配し、北に北城(越中屋敷)、近戸曲輪、南に三、四ノ曲輪があり、東は荒砥川が流れ、その間に根小屋、西には西曲輪の平坦部が附加され、南北670メートル、東西最大幅310メートルの規模を持つ。枠形門、水ノ手門虎口、空濠、土壘等の跡が良く残っている。中世上野の名族である「大胡氏」が拠ったと言われている。



想像図

天正18年(1590)徳川家康の関東入部により牧野氏が大胡領2万石に封ぜられ、康成、忠成二代の居城となった。

牧野氏は、元和2年(1616)に越後(新潟県)長峰へ、そして長岡へと転封された。以後、大胡城は前橋藩領となり、酒井氏時代には城代が置かれたが、寛延2年(1749)酒井氏が姫路へ転封に際し、廃城となった。

The Ogo castle was constructed from the end of 15th century to the beginning of the 16th century. It is said that this castle pertains to "Lord Ogo", of the famous medieval family from here, but it is not historically certain. This demonstrates the conditions of the first modern castle.

前橋市教育委員会

さて、大胡城跡の主要部分を南側の登城口(大手)から二の丸～西側の土橋～本丸と進み、その後、北郭・近戸郭と進んでみよう！



東側の荒砥川から城域に近づくと、本丸(右手)と二の丸(左手)の間にトンネルが見える



これは車で城内の二の丸へ行けるように、本丸(右手)と二の丸(左手)との間の空堀の下部をトンネルとしたもの

[video](#)



右手前にあった「大胡城跡」と刻まれた城址碑



車道のトンネルを通り抜けると、前方に二の丸の駐車スペースがある/左手が二の丸。右手は本丸。

 video



これは三の丸(ネットで囲まれたエリア)と右前方の二の丸の城塁を見たところ



そこで、左手を見たところ/こちらが南郭方向

 [video](#)



同じく、右手を見たところ/前方の高い部分が二ノ丸の城塁/この小川は北から二の丸と三の丸との間を通り、三の丸・南郭に沿って南方向に流れている



小川はここで二の丸(前方)と三の丸(左手前)との間を左手に折れている

[video](#)



そこで、左手に小川を見たところ/右手が二の丸、左手は三の丸



同じく、右手に小川を見たところ/右手に折れて三の丸・南郭に沿って南方向に流れている



小川を渡る橋からその先を見たところ/左手は二ノ丸の城塁



更に二の丸の城壁に沿って進んだところ/この先に先程のトンネルがある



さて、二の丸への登城口(大手)の虎口である「水の手門」から二の丸に入ろう！(なお、現状では小川を渡り二の丸の城塁から「水の手門」に登ることは不可)



「水の手門」から二の丸に入ると、正面に説明板と標柱が立っている/その背後の空堀の上部に本丸のエリアが展開する





「大胡城二の丸」とある



そこで、振り返ると二の丸への登城口(大手)の虎口である「水の手門」跡がある

 [video](#)



「水の手門」とある



フェンスで区画されていて中には入れなかつた



同じく、右手を見たところ/前方に「桙形門」が見える

 video



本丸への柵形虎口である/ここを通り、左手の空堀を渡る土橋から本丸へと入ったものと思われる

[\[動画\]](#) video



石垣が積まれている



「樹形門」とある



反対側から見たところ

 video



そこで、右手を見たところ/右前方は本丸との間の空堀で、土橋を渡って本丸へと至る(なお、現状では土橋は削られ、車道から本丸へ登る階段があった)



樹形虎口の前方は二の丸/駐車スペースになっている

 [video](#)



良く残っていたものだ！

 [video](#)



左手



右手



二の丸/前方で右手に折れている



そこで、左手を見たところ/「水の手門」が見える



同じく、右手を見たところ/本丸の土壘とそれを取り巻く空堀が見える



二の丸はこの先で右手に折れている



右手に折れた先の二の丸を見たところ/北方向/右手が本丸



これは二の丸から本丸の土壘の折れ角を見たところ



本丸の土塁の折れ角下の空堀を見たところ

 [video](#)



同じく、「樹形門」方向を見たところ/東方向

 [video](#)



これは二の丸から本丸への西側の土橋/この虎口は改変されて幅が大きくなっているらしい

 [video](#)



そこで、左手を見たところ/空堀は前方で本丸の北側に横堀となって回り込んでいる



同じく、右手を見たところ



更に右手を見たところ/二の丸の南方向



土橋/この土橋も本丸へメンテナンス等に重機を入れるためなのか大きく改変されているようだ

[\[動画\]](#) video



そこで、左手を見たところ/空堀が前方で本丸の北側に横堀となって回り込んでいる様子が見てとれる



同じく、右手を見たところ



これはトンネルの先の車道を二の丸に登ってきた辺りで、本丸(右手)の土壘下の空堀を見たところ



それでは空堀底に下りてみよう！

 [video](#)



ここが本丸の土壘の折れ角/右手に折れて進むと二の丸から本丸への西側の土橋がある

 [video](#)



折れた先を見たところ/北方向/二の丸から本丸への西側の土橋が見える



振り返って、今歩いて来た方向を見たところ/東方向/左手が本丸の土壘、右手は二の丸



正面が二の丸から本丸への西側の土橋

 video



そこで、振り返って本丸の土壘の折れ角方向を見たところ/南方向/左手が本丸の土壘、右手は二の丸



さて、二の丸から本丸への西側の土橋を渡って本丸のエリアに進もう！



二の丸から本丸への西側の虎口



そこで、右手を見たところ



同じく、左手を見たところ



ここが本丸のエリア/前方(東側)が一段高くなっている

 video



振り返って、二の丸から本丸への西側の虎口を見たところ

 video



本丸の一段低いエリアで東方向を見たところ

 video



そこで、左手(北方向)を見たところ



同じく、右手(南方向)を見たところ



同じく、振り返って西方向を見たところ

 video



これは本丸の土壘の折れ角の内側で、北東方向に本丸を見たところ



そこで、左手を見たところ/土塁は北側にも回っているのが見て取れる



同じく、右手を見たところ

 video



これは本丸の土壘の折れ角の上に登って、北東方向に本丸を見たところ

 [video](#)



そこで、左手を見たところ

 video



同じく、右手を見たところ



同じく、振り返って本丸の土壘の折れ角下の空堀を見下ろしたところ



こんな塩梅



そこで、左手を見たところ

 video



同じく、右手を見たところ



これは本丸の一段低いエリアに鎮座していた小祠





こちらが本丸の一段高いエリア/両エリアを仕切る段差の部分に石が積まれている

 [video](#)



そこで、振り返って本丸の一段低いエリア(西方向)を見たところ



これは本丸の段差の部分で、南側から北方向を見たところ/右手が本丸の一段高いエリア/樹形門から土橋を渡るとここに出るようになっていたと思われる



そこで、左手を見たところ



同じく、右手を見たところ/ここが本丸の一段高いエリアへの虎口のようだ/左手に標柱が立っている

 video



「大胡城本丸」とある



右手を見たところ/石が積まれている



左手を見たところ/石垣と言っても良さそうだ



本丸の一段高いエリアで東方向を見たところ

 [video](#)



そこで、左手(北方向)を見たところ



同じく、振り返って本丸の一段低いエリア(西方向)を見たところ



同じく、右手(南方向)を見たところ



本丸の一段高いエリアの隅にこんな石を搔き集めた山があったが、これも石積に使われていたものなのかな？



前方に見えていた看板がこれ/この城塁下は根古屋地区で、土砂崩れの危険を知らしめる内容



これが眼下の根古屋地区/荒砥川も見える

[video](#)



そこで、左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



左手(北方向)には慰靈塔や記念碑が立っていた







石碑の背後で西方向を見ると本丸の北側の土塁があった

[video](#)



その土壘上に登って北方向を見ると、眼下に橋が見える/橋を渡った先が北郭で、以前は幼稚園の建物があったという事で、そこへ行くための橋だったようだ



土壘上で西方向を見たところ/前方で左に折れている

 video



振り返って東方向を見たところ/土塁は前方で右手に折れて続いていたが、東面は災害防止のために撤去しフェンスを設置したらしい

[video](#)



北方向の北郭を見たところ

 [video](#)



眼下を見ると小川が流れているが、これは本丸と北郭の間の巨大な堀切(大堀切)とされたものという



西端で土塁は左手(南方方向)に折れている/土塁の向こうは二の丸



そこで、振り返って東方向を見たところ

 video



土壘の先、南方向には二の丸から本丸への西側の虎口が見える/左手が本丸の一段低いエリア、右手は二の丸

[\[動画\]](#) video



そこで、振り返って北方向を見たところ



これが二の丸から本丸への西側の虎口/左手が本丸の一段低いエリア、右手は二の丸

[\[video\]](#)



そこで、左手に本丸の一段低いエリアを見たところ



同じく、右手に二の丸への土橋を見たところ



更に右手を見たところ



次は北郭と近戸郭を見てみよう！



この小川は本丸(左手)と北郭(右手)の間の巨大な堀切(大堀切)とされたもの/ここを進んで見よう！

 [video](#)



左手が本丸、右手は北郭

[\[動\] video](#)



そこで、左手の本丸の城塁を見上げたところ



更にその左手/本丸の城塁が南方向に折れている



同じく、右手を見ると本丸の土壘上から見えた小川に架かる橋がある/この先に幼稚園があつたらしい/バリケードが置かれ、立ち入り禁止になっていた



橋の上から西方向を見たところ/左手が本丸、右手は北郭



振り返って東方向を見たところ



これは北郭(左手)と近戸郭(右手)との間に通っている道路/西方向に見たところ

[\[動画\] video](#)



右手の近戸郭には大胡神社が鎮座している

 [video](#)



急激な石段を登って行く



途中で振り返って南方向を見たところ/前方が北郭/なお、北郭と近戸郭の間はかなり離れており、近戸郭は出丸(出郭)という扱いであったかと思われるが?



ここが大胡神社



前橋市指定天然記念物 大胡神社のムクロジ(無患子)

指定年月日 平成20年3月19日
所在地 前橋市河原浜町615 大胡神社
所有者および管理者 大胡神社



ムクロジの実

このムクロジは、自通り周3.7m、樹高25mに達する巨樹で、地上3.8mの高さで3幹に分かれています。枝張りは、東西18.2m、南北21.7mに及び、根周りは非常に大きく周50m以上に達しています。環境省の調査によると、樹齢は300年以上と考えられています。ムクロジは、西日本の山林には自生していますが、群馬県での自生は知られていません。このムクロジも移植されたものと考えられます。

ムクロジの実は、石けんとして利用されたほか、羽子板の追羽根や数珠としても利用されました。

前橋市指定文化財 大胡神社の算額

指定年月日 平成6年4月5日
所在地 前橋市河原浜町615 大胡神社
所有者および管理者 大胡神社

算額とは、和算家が自分で研究した問題と解答を社寺の軒下に奉納掲揚したものです。この額は、大正4年に船津伝次平を師とする、和算家である大原福太郎（茂木町）が奉納したもので、3つの問題が載せられています。和算は江戸時代に盛んでしたが、明治以降衰えたため、大正期の算額としては珍しく、県内唯一のものです。

前橋市指定重要無形文化財 太々神楽の舞

指定年月日 昭和44年7月7日
所在地 前橋市河原浜町615 大胡神社
保存団体 足軽町太々神楽保存会



太々神楽の舞

この舞は、往古より徳川時代までの神慰の行事として、足軽町に伝えられてきました。明治42年の神社合祀により、足軽町神明宮の神楽殿は大正元年に大胡神社へ移転されました。以後、河原浜と足軽町の人たちが毎年交互に舞っていましたが、現在は、5月3日の春の例大祭に足軽町太々神楽保存会が奉納しています。

拝殿

[video](#)





右斜めから見たところ/右奥が本殿/この平場が近戸郭



社殿右手の斜面を見下ろすと堀が見える

 video



ここは大胡神社の左奥から北方向に行く道を進んで、振り返って見たところ/ここが近戸郭への虎口だったようだ

[\[動画\]](#) video



ガードレールの両サイドは堀となっており、ガードレールの切れ目からその堀に下りることができた

 [video](#)



すると墓地があり、その右手に深い堀が近戸郭を取り巻いていた

 video



振り返って、ガードレールの切れ目方向を見たところ



前方は南西側から見た近戸郭

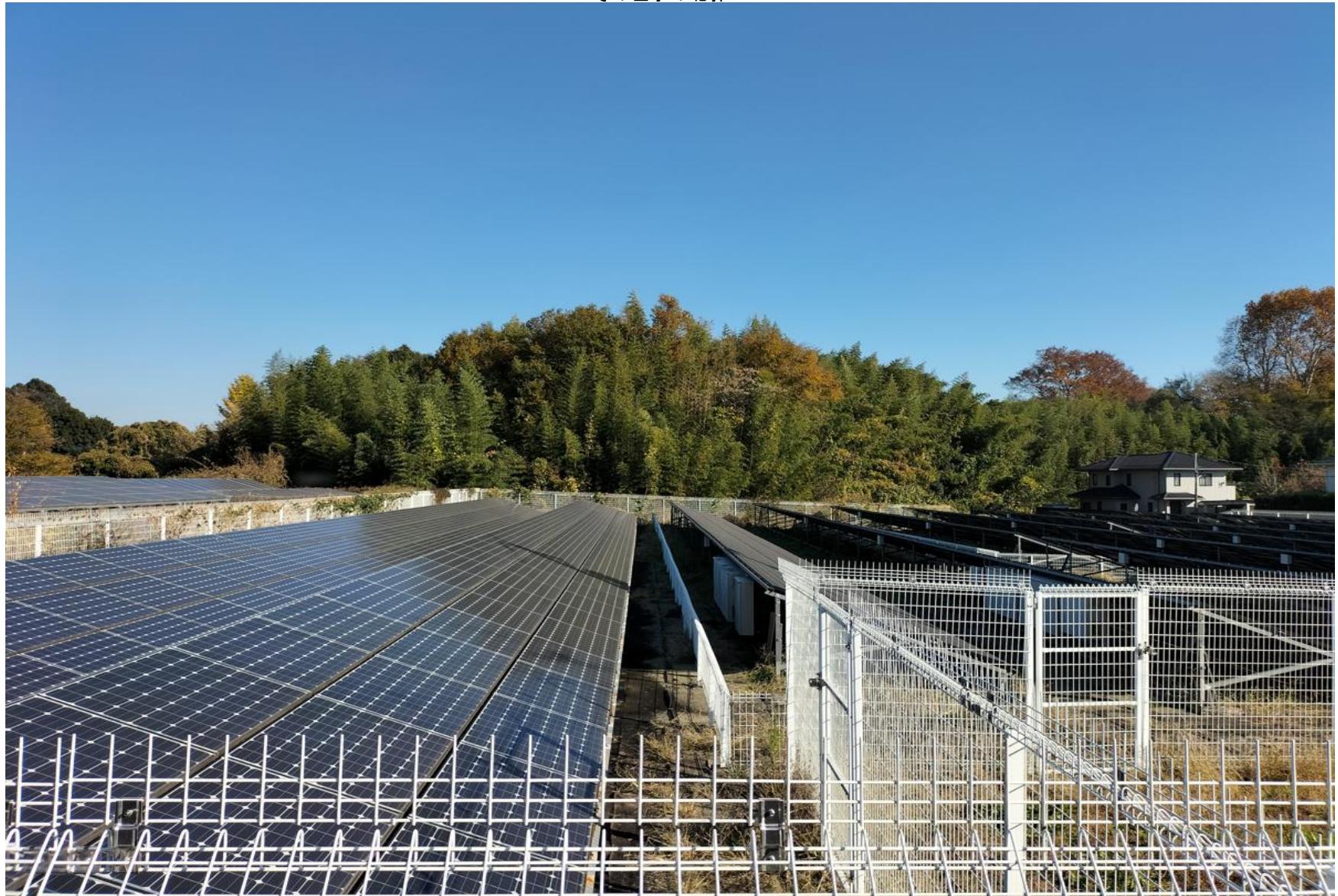


こちらの前方は西側から見た本丸・二の丸/その右手方向に三の丸・南郭が展開していた

[video](#)



その左手の北郭



更に左手の近戸郭



こちらは前橋市立大胡中学校裏の駐車場/前方に二の丸が見える

[\[動画\] video](#)



さて、ここは大胡城跡の西側に所在する養林寺





浄土宗 無量山 養林寺縁起

このエリアに大胡太郎実秀の館跡があったことが記されている
鎌倉時代大胡太郎実秀といえる武将あり。淨土宗の宗祖法然上人に帰依し此の地に草庵を建て念佛修業を怠らなかつた。

徳川家康公の御家来牧野康成侯は、天正十八年、二万石を以つて大胡城主となる。大胡太郎実秀の念佛の旧蹟なるを聞き、養林寺を創建し、念佛修業の寺とした。百石を御朱印地として寺へ寄進されたので、養林寺は上野三檀林の一つとして、名刹であつた。

度々の火災に罹り、堂塔すべて焼失したが、山門は江戸時代初期の建築である。勢多郡下唯一ヶ寺の浄土宗寺院で、称名念佛の法燈を継承している。

大胡太郎実秀の館跡と思われる二重堀

史 跡

大胡城主牧野康成侯の墓

徳川家康公以下五代將軍までの供養塔

。 吞龍上人尊像安置(明治六年大光院より第一御分身)

建築物 養林寺山門(江戸初期の建築で桃山風様式)

前方が養林寺本堂

 video



大胡氏館跡の二重堀が残っているようだが…

[\[動\] video](#)



